

数理 News 2012-1

東京大学大学院数理科学研究科

平成24年11月20日発行

編集：広報委員会

数理ニュースへの投稿先： surineews@faculty.ms.u-tokyo.ac.jp

数理ニュースホームページ： <http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/~surineews>



2012年度の数理科学研究科

大学院数理科学研究科長
坪井 俊

2012年4月から数理科学研究科長を務めているという立場でこの原稿を書いています。2012年度が始まるとき、数理科学研究科で何をしなければならないかを大分考えました。

そのときに、今年の4月には研究科創立20周年を迎えたので、これまでの記録が散逸する前に、20周年記念誌を発行すること：グローバルCOEプログラムが、今年度終了するので、その後のプログラムとして、リーディング大学院プログラムに応募すること：今年1月に「将来の入学時期の在り方に関する懇談会」がまとめた「将来の入学時期の在り方について—よりグローバルに、よりタフに—（中間まとめ）」に対応することの3つが、どうしてもしなければいけないこととして現れてきました。

この最初の部分は9月28日に、数理科学研究科創立20周年記念行事を行い、そこで、創立20周年記念誌をお配りすることができました。9月28日には、多くの方にご参加いただきましたが、記録の意味もあるので、その時のあいさつをご紹介します。

創立20周年記念式典式辞

本日は、ご多用の中、数理科学研究科創設20周年記念式典にお越しいただきどうもありがとうございます。御来賓の皆様、また、お越しいただいたすべての皆様にあつく御礼申し上げます。

お配りした20周年記念誌にもありますように、当研究科は平成4年、1992年4月に、当時の理学部数学教室、教養学部数学教室、教養学部基礎科学科数学教室を統合する独立研究科として設立されました。

当研究科は東京大学においては、数学・数理科学の教育全般に、すなわち、教養学部1,2年生、理学部数学科および教養学部基礎科学科数理コース、現在の統合自然科学科数理自然科学コースの3,4年生、数理科学研究科の修士課程、博士課程の教育に責任を持つ組織であり、対外的には、数学・数理科学研究において、世界をリードしていく組織として設立されました。

この20年間、数理科学研究科の構成員は、この教育研究のために努力を続けて参りました。研究の成果の部分につきましては、毎年300ページを超える研究成果報告書にまとめております。

皆様のおかげで、この建物、数理科学研究科棟を1995年、1998年に建てていただき、数理科学研究科として一体として活動できるようになりました。また、東京大学は2004年に国立大学法人となりましたが、2005年に



大学院数理科学研究科長 坪井 俊

は、玉原国際セミナーハウスの開設、2006年には数理図書室部分の増築をすることができました。このような施設は数理科学の研究者の間のシナジーを引き起こすために欠くべからざるもので、時期を失することなく、大学および文部科学省の皆様に措置していただいたことに、深く感謝しております。

数学・数理科学の教育研究は、2千年以上にわたって培われてきた人類の文化を継承し、次世代に伝えていくとともに、現実の問題から絶えず提起される新しい対象に対する新しい数理的アプローチを作り上げていく営みです。

その方法は、コンピュータの驚くべき発展により多くの数値実験が可能になった現在でも、基礎に立ち返り論理的な枠組みを整理していくという地道なものです。

我々が教育を行っている東京大学教養学部、理学部数学科、教養学部統合自然科学科、数理科学研究科には、世界でも最高レベルとあってよい優秀な学生がおりますが、世界的な研究者である教員が、授業の準備や学生とのセミナーに長い時間を使うことで、次世代の教育研究の担い手を育てていると自負しております。セミナーについては世界中で行われていることですが、東京大学の1人目の数学教授藤澤利喜太郎により、日本にもたらされた方法であるとのこと。ちなみに1人目の数学教授は菊池大麓、3人目は高木貞治です。この教授方法の広まりとともに、日本の数学・数理科学の教育研究は世界に肩を並べるものになりました。私どもの数理科学研究科はこの伝統を引き継いで今日に至りました。

数理科学研究科は、20年間、教育研究におけるCOE, Center of Excellenceを目指して参りましたが、そのために21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラムに採択していただき、これらの資金で研究科を活性化して参りました。その成果を中学生、高校生向けの講義、市民講座、ビデオアーカイブスの公開などを通じて社会に発信できるようになってまいりました。

20世紀に形式化、抽象化された数学は、それにより応用の範囲をさらに広げました。21世紀に入って計算情報技術の発展にも支えられて、数学が様々な分野で活用されるようになって参りました。

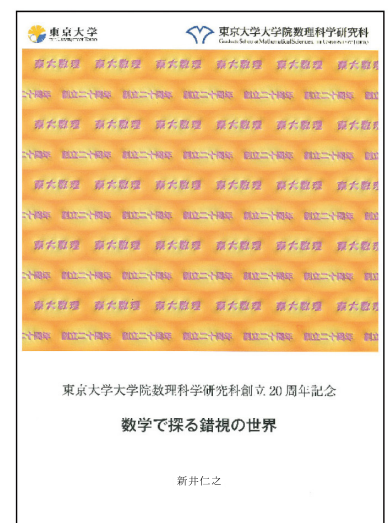
このことから、ありがたいことですが、数学・数理科学の成果をより積極的に応用していくという諸科学の要請、産業界の要請が、今世紀に入って強くなってきていると感じております。数理科学研究科といたしましても、数学と物理科学等との深い連携、数学と産業の幅広い連携を担い、新たな数理科学を作り出していくリーダーの養成を目指し、理学系研究科および2007年に発足しましたIPMU、現在のカブリ数物連携宇宙研究機構との緊密な交流を実現して、社会の要請に応えて参る所存です。

20年というのは、赤ん坊がやっと成人を迎えたというところで、皆様から見れば随分と生意気な青二才と思われるかもしれませんが、数学者は、周りとうまく付き合うのは下手でありまして、挨拶するのは最も苦手とするものですが、実際には、ここまで育てていただいたのも皆様のおかげと感謝しております。

数理科学研究科の教育研究の成果には、先ほどの新井仁之教授の講演にもありますようにユニークなものも多いと思います。全体として、数学の基礎を固めつつ、応用への展開をも探っていく営みですが、それが目に見える形になるためには、伊藤清の例を引くまでもなく10年単位の時間がかかるものです。時間をかけてでも、数学的基礎付けをはっきりさせた応用の信頼性、汎用性は、社会の要請にこたえられるものであると信じております。そのために数理科学研究科の構成員は努力を重ねているものと存じます。このような数学・数理科学の時間の流れ方にもご理解いただき、今後とも温かい目でご指導ご鞭撻いただくことをお願いして御挨拶とさせていただきます。



大学院数理科学研究科
20周年記念誌



記念品として配付された
「数学で探る錯視の世界 新井仁之」

創立 20 周年記念祝賀会挨拶

本日は、ご多用の中、数理科学研究科創設 20 周年記念祝賀会にお越しいただきどうもありがとうございます。御来賓の皆様、また、お越しいただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

数理科学研究科の設立が 1992 年 4 月であったことは、記念式典で申し上げた通りですが、この設立の経緯につきましては、歴代研究科長をはじめ、ここにお越しいただいた方々のなかに詳しくご存じの方がいらっしゃいます。ご歓談の間にでも伺っていただければ幸いです。私自身は、理学部数学科におりましたが、ちょうどその時には外国出張中でしたので、出来てしまった数理科学研究科をどうするかという方が問題でした。その最初が建物問題で、このコモンルームが必要である理由をどう書けば良いかを初代研究科長の落合先生と検討したものでした。この建物自体は、今日お越しいただいた香山先生に我々の希望を取り入れた設計をしていただき数理科学研究科一同非常に感謝しております。

いろいろとありまして、なんとか成人に達した数理科学研究科ですが、理由はよくわかりませんが、現在は、様々な問題に対処を迫られております。部局となっているのですから、学内の様々なことに参画するように要請があるのは当然ですが、記念式典の御挨拶でも申し上げましたが、社会からの要請にも応えていかなければならないように感じています。新成人に対しての荒波は相当なものです。この祝賀会では、是非皆様にそれに対処するお知恵を拝借したいと存じます。

御年輩の方からは、今の若いものはなっていないというお言葉が出て、若い人からは、昔は自分たちほど大変ではなかったというボヤキがでるというのは、数学の歴史よりももっと古いことかもしれません。この祝賀会では、次の記念式典を行うかもしれない 10 年後の数理科学研究科の姿などについても、ご意見を伺えればありがたく存じます。今後とも数理科学研究科に温かい目でご指導ご鞭撻いただくことをお願いして御挨拶とさせていただきます。

リーディング大学院プログラムについては、まず東京大学から応募することを認めていただき、数理科学研究科を中心として、理学系研究科の物理学専攻、地球惑星科学専攻、カブリ数物連携宇宙研究機構と共同で 5 月末に応募しました。コーディネーターの河野俊丈教授に、本当に分厚い申請書をまとめていただきました。まず、8 月末のヒアリングに進むことができ、10 月 1 日に、採択の通知を得ました。9 月から採択された場合を考えて準備をしていましたが、採択後すぐに特任助教、教育支援員の公募、コース生の募集を行うことができました。

さて残った入学時期の問題は、現在、「入試時期等の教育基本問題に関する検討会議」のもとに設置された部会が中間報告等を行っているところです。これはなかなか片付かない問題となっておりますが、数理科学研究科が、東京大学においては、数学・数理科学の教育全般に責任を負う部局であることを基本にして、対応を続けていくことになると思います。

こうしてみると、数理科学研究科が存続するとして、2012 年を将来振り返ることがあれば、20 年前と同じくらい重要な年として振り返ることになるのではないかと思います。動きだしたリーディング大学院も、難しい入試時期等の教育基本問題も、これから解決しなければいけないことが山のようにあるようです。これら乗り越えるためには、数理科学研究科の構成員の皆さんの協力が欠かせません。今後ともよろしく願いいたします。

東京大学大学院数理科学研究科創設 20 周年記念講演・式典 次第	
日 時	平成 24 年 9 月 28 日 (金)
	記念講演 午後 2 時～
	記念式典 午後 3 時 30 分～
	特別講演 午後 4 時～
場 所	数理科学研究科棟大講義室
次 第	司会 副研究科長 楠 岡 成 雄
	〔記念講演〕午後 2 時開始
	演題「数学的方法による視知覚と錯覚の研究とその応用」
	東京大学大学院数理科学研究科教授 新 井 仁 之
	〔記念式典〕午後 3 時 30 分開始
	開 式
	式 辞 東京大学大学院数理科学研究科長 坪 井 俊
	総長挨拶 東京大学総長 濱 田 純 一
	来賓祝辞 文部科学省高等教育局長 板 東 久 美 子
	(代読) 国立大学法人支援課国立大学戦略室長 下 敷 領 敏
	京都大学数理解析研究所長 森 重 文
	〔特別講演〕午後 4 時開始
	演題「日本の教育力と学力—数学力・数学研究力の課題—」
	武蔵学園長 (元文部大臣、元東京大学総長) 有 馬 朋 人
	閉 式

東京大学大学院数理科学研究科創設 20 周年記念祝賀会 次第	
日 時	平成 24 年 9 月 28 日 (金) 午後 5 時 15 分～
場 所	数理科学研究科棟 2 階コモンルーム
次 第	司会 副研究科長 楠 岡 成 雄
	開 会
	乾 杯 東京大学大学院数理科学研究科長 坪 井 俊
	乾 杯 日本体育大学教授 (東京大学名誉教授) 落 合 卓 四 郎
	来賓祝辞
	東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長 長谷川 壽 一
	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所長 若 山 正 人
	名古屋大学大学院多元数理科学研究科長 木 村 芳 文
	科学技術振興機構理事 中 村 道 治
	沼田市長 星 野 巳 喜 雄
	青山学院大学理工学部教授 (東京大学名誉教授) 藤 原 順 吉
	法政大学理工学部教授 (東京大学名誉教授) 桂 利 行
	閉 会

創立 20 周年記念講演・式典 及び祝賀会のプログラム

創立 20 周年記念講演・式典及び 祝賀会が開催されました

大学院数理科学研究科は大学院重点化の一環として平成 4 年に大学内の数学関連 3 教室（理学部数学教室、教養学部数学教室、教養学部基礎科学科基礎数学教室）を合併し独立研究科として創設されてから本年で 20 年を迎えました。

これを記念して、9 月 28 日（金）、数理科学研究科棟大講義室において創立 20 周年記念式典を挙行了しました。



正面玄関にて

坪井俊教授（左）大島利雄教授（右）

まず、初めに新井仁之教授による「数学的方法による視知覚と錯覚の研究とその応用」と題して記念講演を行いました。聴講した学生、本学教職員や招待者など約 100 名が熱心に講演を聞き入っていました。



新井仁之教授の記念講演の様子



濱田純一総長の挨拶

その後の式典においては、坪井俊研究科長の式辞、濱田純一総長の挨拶に続き、板東久美子文部科学省高等教育局長（代読 下敷領強国立大学法人支援課国立大学法人戦略室長）、森重文京都大学数理解析研究所長の祝辞がありました。続いて、有馬朗人武蔵学園長（元文部大臣、元総長）より「日本の教育力と学力—数学力・数学研究力の課題」と題して特別講演があり、本研究科への激励のメッセージがありました。



有馬朗人武蔵学園長の特別講演の様子

式典終了後、招待者等はコモンルームへ移動し、坪井俊研究科長の挨拶の後、落合卓四郎日本体育大学教授（本学名誉教授）の乾杯により祝賀会は始まりました。祝賀会の途中には、長谷川壽一大学院総合文化研究科長・教養学部長、若山正人九州大学マス・フォア・インダストリ研究所長、木村芳文名古屋大学大学院多元数理科学研究科長、中村道治科学技術振興機構理事長、星野已喜雄沼田市長、薩摩順吉青山学院大学理工学部教授（本学名誉教授）、桂利行政政大学理工学部教授（本学名誉教授）の 7 名の来賓の方々から本研究科への温かい祝辞をいただきました。祝賀会は盛況のうちに終了しました。

（数理科学総務係 井ノ口秀樹）



落合卓四郎日本体育大学教授による乾杯



長谷川壽一大学院
総合文化研究科長・教養学部長



若山正人九州大学
マス・フォア・インダストリ研究所長



木村芳文名古屋大学大学院
多元数理科学研究科長



中村道治科学技術振興機構理事長



星野已喜雄沼田市長



薩摩順吉青山学院大学理工学部教授



桂利行政政大学理工学部教授

人事ニュース

平成24年4月1日～9月30日

教員

転入

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
24.4.1	高山 茂晴	大学院数理科学研究科 教授	大学院数理科学研究科 准教授
24.4.1	逆井 卓也	大学院数理科学研究科 准教授	東京工業大学大学院理工学研究科 助教
24.4.1	権業 善範	大学院数理科学研究科 助教	日本学術振興会 特別研究員

転出

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
24.3.31	北田 均	退職	大学院数理科学研究科 准教授
24.3.31	柳 春	ペンシルバニア州立大学 教授	大学院数理科学研究科 教授

職員

転入

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
24.4.1	井ノ口 秀樹	教養学部等総務課数理科学総務係長	本部企画課係長
24.4.1	細川 芽	教養学部等図書課数理科学図書係長	農学系総務課専門職員
24.4.1	植田 瑠子	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	
24.4.1	葛野 愛子	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	
24.4.1	木村 佐斗子	大学院数理科学研究科 学術支援専門職員	大学院数理科学研究科 派遣職員

転出

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
24.4.1	田村 啓子	社会科学研究所係長	教養学部等総務課数理科学総務係長
24.4.1	安藤 京子	附属図書館情報管理課選書受入係長	教養学部等図書課数理科学図書係長
24.3.31	浦部 理英子	退職	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員
24.3.31	渡部 梨沙	退職	大学院数理科学研究科 事務補佐員
24.3.31	杉山 智子	退職	大学院数理科学研究科 事務補佐員
24.3.15	竹内 愛	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員

—新任紹介・教員—

逆井 卓也

大学院数理科学研究科 准教授

2012年4月1日付けで数理科学研究科に着任いたしました。これまでに9年2ヶ月と長い間数理棟に通っていたものの、今回新たな形で再び本研究科に勤務することとなり、大きな喜びとともに、それに匹敵する緊張を感じています。

専門はトポロジーで曲面の写像類群を中心に、4次元多様体の不変量やリーマン面のモジュライ空間の組み合わせ的な構造を調べています。写像類群はトポロジーに限らず多くの分野と関わっており、表現論や非可換環論、計算機による大規模計算など様々な方法を用いて研究をしています。

前回、特任助教としてこの数理ニュースに原稿を書いた時は（それが配布される前に異動となってしまいました…）、COE プロジェクトから GCOE プロジェクトへの移行がなされている頃で、本研究科の更なる進化が予感されていました。そして、それは外から見ている者にとってもはっきりと分かる形で実現されたと思います。しかしながら東日本大震災を経て社会の先行きがより不透明になる中、今後の進化の形として、震災以前に思い描かれていたものとは明らかに異なるものが求められているように思います。それが何なのか、私にはまだはっきりとした形が見えていませんが、日々の教育、研究、運営活動を通して模索していきたいと考えています。

コーヒータイムなどでコモンルームに現れましたら、お気軽にお声をかけて下さい。皆様と充実した時間を過ごせることを強く願っています。どうぞよろしくお願い致します。

権業 善範

大学院数理科学研究科 助教

4月1日付けで本研究科に助教として着任いたしました。権業と書いて「ごんぎょう」と読みます。かなり珍しい名字だと思っています。京都大学の物理学科の大学院生に同じ名字の人がいますが、あれは弟です。学生・ポスドクとして数理棟に既に4年間通っており、今までは4階の院生室を使わせていただいていたのですが、今回5階に移ったので少し体力がついたような気がします。若干、まだ学生気分が抜けていないのを自覚していますが、これから徐々に教員としても成長していきたいと思います。今回就職しまして、演習のクラスをもたせていただいているのがとても新鮮です。今までろくにTAもやってこなかったものですから、試行錯誤の毎日です。演習の問題の準備など、やり始めるとこれはこれで楽しくてすぐに終わってしまうのですが、無精な性格からか、取り組み始めるのが遅く講義の日が近づくにつれ、ただただ焦っています。

研究については、極小モデル理論とアバンダンス予想についての研究をメインに行っております。小平先生を始祖とする東大の伝統を引き継いでいる研究だと思っているので、プライドを持ち日々精進せねばと思っております。

最後に、学生のみなさんと年が近いので、何かありましたら気軽に声をかけてください。駒場周辺で走ったり、ボールを投げたりして遊んでいるので見かけることも多いと思います。

一新任紹介・職員一

井ノ口 秀樹 数理科学総務係 係長

今年4月に総合企画部企画課から異動してきました。企画課では主に東日本大震災の救援・復興のための仕事をしていました。

今回、駒場キャンパスで勤めるのは初めてということで、見るものすべてがとても新鮮です。特に、新入生等で溢れ返ったキャンパスの様子を見ると、自分が大学に勤めているということを改めて実感することができました。これから先、大学院数理科学研究科でお世話になりますが、研究科の発展のために少しでも貢献していければ嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

細川 芽 数理科学図書係 係長

4月より数理科学図書係に着任いたしました。所属の方々の数学への情熱に頭が下がる毎日を送っています。趣味はサッカー観戦で、中村俊輔選手が所属するマリノスを追いかけて日本中飛び回っています。写真の熊は総合図書館にいた頃エルゼビアからもらったのですが、エルゼビアロゴの服からマリノスの服に着替えさせました。微力ながら皆様の研究のお役に立てればと思っております。図書室への要望がございましたら遠慮なくお聞かせください。よろしくお願いいたします。

植田 瑤子 事務補佐員

4月1日付けで数理総務係に採用されました、植田瑤子と申します。早く仕事に慣れ、皆様のお役に立てるよう日々努力して参ります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

葛野 愛子 事務補佐員

4月1日付で採用になりました。よろしくお願いいたします。久しぶりに科研費を担当することになり、身が引き締まる思いです。前任の学芸大では、主に出張と勤務管理の仕事をしておりました。更にはその前は、静岡、京都、ロンドンと渡り歩き、国立の地に定住して4年になります。最近、1時間の通勤時間を利用して読書を楽しんでいます。司馬遼太郎の「翔ぶが如く」全十巻を少しずつ読んでいます。幕末ファンの方がいらっしゃいましたらお声を掛けてください。

一教理トピックス

学位記伝達式

平成 24 年 3 月 22 日、修士・博士課程学位記伝達式が数理大講義室で行われました。アカデミックガウンを着用した大島利雄研究科長から修了生に学位記が授与されました。坪井俊専攻長と大島利雄研究科長から修了生に祝辞が述べられました。式には、約 50 名の修了生が出席しました。また、式の終了後、ロビーにて記念撮影をしました。



大島研究科長から学位記の授与



平成 23 年度

修士課程修了者 43 名

博士課程修了者 16 名

懇親会

平成 24 年 3 月 22 日、ファカルティハウス 1 階のセミナー室にて数理懇親会が開かれました。教職員や名誉教授等合わせて約 50 名が参加しました。懇親会の世話人の儀我美一教授、今野宏准教授、高木寛通准教授の司会で進行し、今年度で退職、異動する教職員、および新任教職員の紹介がされました。宮岡洋一副研究科長の開会の挨拶の後、藤田宏名誉教授により乾杯の音頭がとられました。歓談の後、柳春教授から転出の挨拶がありました。続いて、退職される北田均准教授へ黒田成俊名誉教授から贈る言葉が述べられました。北田均准教授からの退職の挨拶では、研究を始めるきっかけとなったエピソード



左から今野准教授、儀我教授、高木准教授



宮岡教授



柳春教授



黒田名誉教授

ソードやこれまで研究を続けてこられた喜びや周りの方々への感謝の意等がユーモアを交えて語られました。次に、異動退職職員 5 名から挨拶があり、花束が贈られました。数理を去る方々との会話が尽きない中、最後に記念撮影をし閉会しました。



北田准教授



懇親会での記念撮影

(撮影 松尾厚准教授)

入進学式

平成 24 年 4 月 4 日、修士課程・博士課程入進学式が数理大講義室で行われました。午後 1 時に開式、坪井俊研究科長、河野俊丈専攻長より式辞が述べられました。続いて、来賓の藤田宏名誉教授より入進学者に祝辞が述べられました。式には、ほぼ全員の入進学者（平成 23 年度修士課程入学者 46 名、博士課程入学者 20 名）が参加しました。



祝辞を述べる藤田名誉教授

春の懇親会

平成 24 年 4 月 27 日、春の懇親会が、コモンスペースで行われました。今年度から研究科長となった坪井俊教授、副研究科長になった楠岡成雄教授の挨拶に続き、専攻長の河野俊丈教授による乾杯の音頭がとられました。大勢の学生や教職員が集い、和やかな雰囲気の中、食事や会話を楽しみました。



坪井教授



楠岡教授



河野教授

環境整備

平成 24 年 6 月 13 日、環境整備（数理棟周辺の清掃および粗大ごみの廃棄）が行われました。ご参加下さった教職員、学生の皆様ご協力ありがとうございました。

玉原セミナーハウス環境整備（草刈り）

平成 24 年 6 月 24 日、25 日に、玉原国際セミナーハウスの環境整備の一環として草刈りが実施されました。これは、毎年草が伸びる前のこの時期に一斉に実施するものであり、草刈りとともに側溝に溜まった泥の除去、道路上の枯れ葉の除去なども併せて行いました。今回は、坪井研究科長、大島前研究科長、教養学部等事務部の各課から 8 名、総勢 10 名で行われました。上毛高原に着いた時は夏のうだるような暑さで熱中症の心配がありましたが、玉原高原では 2 日間ともに曇り空（特に 2 日目は霧の中）で、環境整備に適した天候となり、怪我等もなく無事に作業を終えることができました。環境整備に参加することで、先生と事務職員、また、事務職員同士の懇親を深めることができました。

（数理科学総務係 井ノ口秀樹）



作業前にセミナーハウス前にて



側溝の泥の除去作業

学生用掲示板「連結空間」

数理 1 階ロビー横の学生用掲示板は、学生の投票により「連結空間」と名付けられました。学生間での情報交換に活用されています。7 月には、七夕飾りが掲示され学生たちが各々の願い事を短冊に書き、笹につるしていました。



修士課程入学試験

修士課程入学試験が行われました。（筆記試験：8 月 27, 28 日 口述試験：8 月 30, 31 日）受験者数は、125 名（本学出身者 41 名、他大学出身者 84 名）でした。9 月 10 日に合格発表があり 47 名（本学出身者 28 名、他大学出身者 19 名）が合格しました。



合格発表の掲示前にて合格を喜ぶ学生

賞

平成 23 年度第 2 回 学生表彰「東京大学総長賞」

平成 24 年 3 月 22 日、小柴ホールにて平成 23 年度第 2 回学生表彰「東京大学総長賞」の受賞式が行われました。大学院数理科学研究科博士課程（当時）の権業善範氏と理学部数学科 4 年（当時）の森田陽介氏が受賞しました。

～「受賞理由」～

（学生表彰プログラムより抜粋）



権業善範氏

権業氏の専門は高次元代数多様体論で、高校生の時に習う二次関数、三次関数のグラフなどの高次元化である。高次元になるとこれらはとても複雑になり、まだ多くの未解決な問題が残っている。特に同氏の研究の最大の目標は、「極小モデルの存在」と「アバダンス」とよばれる構造定理である。3 次元までは肯定的に証明されているが、一般的には未解決である。同氏は、代数多様体に対する極小モデル理論、特にアバダンス予想に対して、重要なステップである半対数的アバダンス予想に対する

夏の懇親会

平成 24 年 7 月 23 日、夏の懇親会が、コモンルームで行われました。恒例の新任の教職員と学生による「スイカ割り」が行われました。見事にスイカに命中する先生、大きく外して手をいたがる職員、周りからは、たくさんの声援がかかり大盛況でした。



スイカ割りの様子



テラスにて歓談の様子

決定的な結果を共同研究の中で得た。また、ファン多様体についても研究を行うなど、未解決分野への挑戦、研究の発展へ尽力する姿勢が高く評価された。



森田陽介氏

森田氏は代数・幾何・解析の全てに渡って知識を吸収しようと幅広く数学科の授業を履修した。4年生セミナーでは、主束と接続、パラメトリクスによる熱核の構成、ラプラスアンのスペクトルといったテキストの内容に加え、関連する話題としてシュワルツ超関数と核定理、クリフォード代数の周期性など、様々な分野の基礎を学んだ。同氏は本質的なアイデアを明確に説明するセミナーを目指し、毎回よりよい定式化、説明のため別書籍や論文を参照し、自分で証明を改良しようと努めた。優秀な成績とこれらの熱心な就学姿勢が高く評価された。

東京大学名誉教授称号

平成 24 年 6 月 19 日、加藤和也氏と神保道夫氏に東京大学名誉教授の称号が授与されました。平成 24 年 9 月 7 日、教授会の冒頭に、坪井俊研究科長から加藤和也氏に名誉教授記が渡されました。

加藤和也氏は、高次元類体論、 p 進 Hodge 理論、ゼータ関数の特殊値、保形形式の岩澤理論、対数幾何といった分野を拓く画期的な研究を展開し、数論幾何の研究を世界的にリードし続けてきました。

神保道夫氏は、数理物理学の分野 (1. イジング模型とモノドロミー保存変形、2. ソリトン方程式の変換群、3. 量子群、4. 可解格子模型と表現論に関する研究) に大きな研究成果を上げた世界的な研究者の一人です。



加藤和也名誉教授



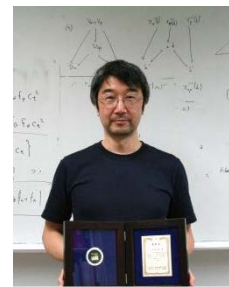
神保道夫名誉教授

学術振興会特別研究員審査会 専門委員 (書面担当) の表彰

古田幹雄教授が、平成 23 年度日本学術振興会特別研究員審査会専門委員 (書面担当) の表彰を受けました。(平成 24 年 7 月 31 日)

日本学術振興会では、学術研究の将来を担う研究者の養成・確保を目的とした特別研究員事業を行っています。その選考審査

の第一段階の書面審査において検証を行い、有意義な審査意見を付した専門委員を表彰しています。書面審査を行った約 1,300 名の専門委員のうち、表彰対象となる任期 2 年目にあたる約 600 名の中から 22 名が選考されました。



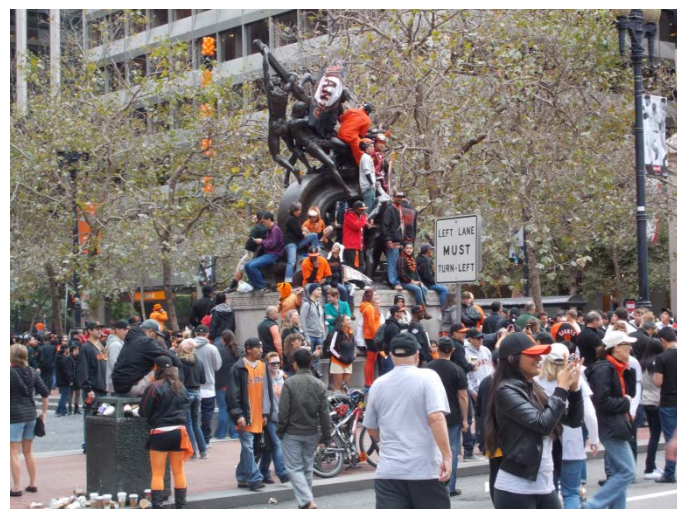
古田幹雄教授

一編集後記一

2 つの時系列観測の非同期性に関して研究していますが、あべこべに、最近出張がいろいろな出来事と同期しています。昨年 3 月、地震直後の計画停電でまだ交通もままならぬ中で、原発の最悪の事態を恐れつつ海外行き、9 月、腸管出血性大腸菌 O104 が猛威を振っているさなかドイツの会議へ、8 月、アイルランドでの会議へ向かう途中滞在したロンドンでは同月に起きていたイギリス暴動に心配し、10 月ニューヨークのウォール街では反格差デモに遭遇。今年も、6 月下旬にシリアによってトルコ軍機が撃墜され両国の緊張が高まるなかトルコ行き、10 月、集会の帰りに立ち寄ったサンフランシスコは、ハロウィンとジャイアンツのワールドシリーズ優勝パレードで騒然とし、加えて大統領選と東海岸ではハリケーン、巡り合わせか、世界は至る所騒動に満ちているのか。

良いこともありました。GCOE は大きな成果とともに締めくりへ向かっていますが、このたびの数物フロンティア・リーディング大学院の始動は誠に大変おめでたい事象同期です。

吉田 朋広



サンフランシスコジャイアンツの優勝パレードにて

広報委員長 吉田 朋広

数理ニュース編集局 金子 道子

*一部写真を割愛しています